

# あおぞらだより

第104号 (発行/平成24年1月)

特集： 年頭挨拶



**新年** 江戸川病院院長 新村ヨシオ  
新年を迎えるにあたって、今年ほど気が重い年はない。通例であれば、元旦を境に心を新たにして、本年も頑張ろうと決意するのであるが、何かを引きずっているようで気が晴れない。普段は、旧年中に達成できなかったことを水に流して、元旦を契機に新たに今年の課題や目標そして教訓などを決めて、自己を啓発する準備を整えるのだが、自身にとっては一年の計が思い浮かばない。恒例なら、年末年始に集まり、一家団欒し、一年の成果を評価や反省したり、抱負などを述べることでお互いに気付かせる心の作用があり、心機一転できることもある。初ものを大切にす文化も日本の伝統であり、期待を込める

言葉でめぐる。初夢・初何・書き初めなど、全てに期待と希望を抱いて、新鮮な心で事に向き合う慣習は、日本人なら誰でも共有できていると思う。それが新たまらないのは、日本の将来に光明を見い出せないからだろうか。東日本大震災、原発事故の放射能汚染・台風19号の水害などをはじめ、日本国中に国民を脅威にさらす災害があり、その復興も遅々として進まぬ報道を見ることも、心の負担になっていると考えられる。

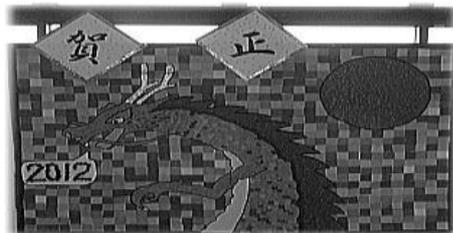
新年はやはり、国に国民が希望の持てる指針を明確にしてもらいたい。これは国家中枢の権力集団に期待するしかないのである。震災は規模も範囲も未曾有の災害であり、その対応は本当に苦勞していると思われるが、今こそ人道政治を断行すべきと考える。逆に、優先順位の低い施策のハツ場ダムの工事の復活や外環道の延伸工事の着工、そして整備新幹線の延長などコンクリート政策が台頭してき

(…次ページに続きます)

ている。この国難に、しかも除染や最終処分施設確保も決定や実行がなされない現状で、景気対策の一環とは言っても、コンクリート政策が浮上してきたのはどんな神経か。まず、その費用は震災地に回すのが最優先ではないか。復興なくして経済は発展しない。物造り日本は津波で工場が流失し、放射能汚染で人は他府県に流出してしまっているのに、とても復興できないと思われる。資金捻出は国会でも通過したのだから、早く自治体に配布して事業が軌道に乗れば、建築や建設で雇用も生まれ、活気づき、産業も復活し、地域は成長するので元の状態に近い人口が戻ってくるはずである。ここまで完了して復興といえるので長年にわたる支援が必要である。超法規的対応を実行しても文句は出ないと思われる。

新年を祝えるのは無病息災・家内安全が保障されて、衣・食・住が揃ってのことである。そのためには職がないと生活の糧が得られない。被災地ではその職が失われてしまい、路頭に迷っている人も多く、凍てつく寒さが追い討ちをかける。震災や原発事故がなかったら、普通の生活を送っていたであろうに。何故、今、1000年に一度の大震災なのか、原発事故なのか、それも広範囲で2万人近い死者と行方不明者・負傷者も相当数に上った大災害が東日本を襲ったのか。日本は地震国だから仕方がないのか。運が悪かったのか。避難者は33万人を超える。被災後の心身の健康状態は大丈夫なのか、今だに気になる。とくに高齢者は自分に重ね合わせてしまい、何から手を付けていいか見当がつかないと思う。命が助かったことを喜べるような対策を早く実行しないと、生きていくエネルギーが枯渇してしまう。明確な事故原因究明がなされないのに、「原発事故そのものの終息宣言」は唐突だったし、除染も始まったばかりで、かつ中間貯蔵施設すらも決まらないのに宣言する常識のなさに呆然とさせられた。政府は復興元年と位置づけ、意気込みを見せ、国民を鼓舞させようとしているが、本気度のなさに空らけている状態である。被災地が一番弱っているのに、この場に及んでも満足な支援できない政府に義憤を感じている。明治時代からの官僚支配の政治制度疲労が露呈している。

新年は景気が上向きが良くなければ祝う気分になれない。財政難は国際規模の経済破綻が取り沙汰され、日本も数年後には崩壊すると予想されている。今こそ、改革の大義名分は立ちやすい時期はない。政府の人々もこの国難を救おうという意志があるならば、議員定数の削減、公務員制度改革を実施し、人件費の抑制に協力してくれてもいいのではないか。政府の意向の真剣度が理解されれば国民の士気も高まり、「再生日本」が現実化し、景気回復の気運も上昇してくると思う。このままでは医療・介護・年金も成り立たなくなり、生きられる保証もなくなる。ここで模範を示すのが政府の役割であり、頭脳集団の面目であると考え。国の指導者が身を切って頑張れば、医療・食品・介護を除けば消費税率の上昇は甘受するはずである。どこに目を向けても明るい材料はなく、諦めなのか、加齢による無力感かあるいは日常の雑務に押し流されてなのか、心が新たまらない。自身はとても正月気分にはなれなかった。維新の気運が高まるか。



## 院長 年頭挨拶

昨年は東日本大震災や原発爆発事故に始まり、台風 19 号の水害など、尊い命が自然災害によって奪われた年であったので、とても重苦しい年でした。

当院にとっては、昨年も院内感染の孤発はあっても、拡大はなく過ごせました。これも皆様の感染防止の志気の高さが、感染を防止できたと思っています。行政の医療監視や実地指導において業務遂行に前向きに取り組んでおり、指導は多少はあっても、指摘や改善命令などはなく、職員の志気の高さも評価されました。医療安全をはじめ、各委員会の活動や研修に対しても是認され、病院としての義務は遵守されている事も認められています。診療部をはじめ、事務部、看護部、薬剤部、栄養部、リハビリ部門、相談室などを支えてくださる職員のご協力の賜物と思っています。

医療については、平成 24 年 4 月に医療費改定が予定されていますが、急性期医療や在宅医療には手厚い見直しとなりましたが、当院は慢性期病院に該当するため、恩恵にあずかれません。また期待を裏切られ、今後は大きな舵取りを迫られそうです。でも精神医療の需要は増大しているので、現実的には入院医療は必要になっています。入院患者さんに選ばれる病院になることを目標として、さらに医療や接遇の向上を心掛けていかななくてはなりません。

精神医療については脱入院化を唱えられて久しいのですが、厚生省も本腰を入れて取り組むようになり、在宅医療に誘導しています。退院促進を指導し、委員会の設置を義務化しようとしています。退院させた患者さんを地域に戻し、地区に支援機関や施設を増設し、人的にも専門職員を置いて、就労支援まで実施する地域包括的医療を計画しています。その政策に病院も協力していかななくてはならず、医師・相談室も地域連携を義務付けられると予想しており、多忙になる一方です。認知症対策も入院は短期間にして、在宅に帰すという流れを作ろうとしています。

高齢化社会に突入しており、医療費は年間数兆円は増大するため、何としてでも抑制しなくてはなりませんが、これは想定できたことです。その肩代わりとして、介護保険を導入し、規制を緩和して老人ホームや介護施設を増やしてきました。疾病が発生したら、家族が呼ばれ施設から病院の外来で診察を受けるという変則になってきています。どうしても施設での対応には限度があり、寝たきりになってしまうこともあります。再入院、転院、退院という悪循環になっており、介護と医療の垣根が不明になり、いずれ両方とも崩壊してしまいます。先の見えない医療政策も対応しなくてはならず、困難は待ち受けています。

人件費の上昇を補うほどの改定はないので、病院経営は楽にならず落胆しています。病院の仕事の内容と責任の重さを考えると対価の報酬としては低いとは思っています。以上のことから皆様にはこれまでエコや節約の意識を持ち続け、病院の経費節減にご協力ください。それに

この一年もう一度病院の理念を確認し、仕事に取り組み、楽しい職場にしてください。



### 病院理念

- 1・進歩的で良質な精神医療を提供する。
- 1・安全を優先し、信頼される医療を提供する。
- 1・優しさ・思いやり・親切の心で、人権を尊重した全人的医療を実践する。
- 1・お互いの職域を理解しあい、高い視点に立って、一丸となって治療過程に参加する。



1・快適で安心できる療養環境を整えるよう、物心両面から支援する。

### 桃源 書初め

認知症治療病棟「桃源」では、D棟は1月4日、E棟は1月6日にそれぞれ書初めを行いました。その中でも、ご自分の目標を書いてくださった患者様もおられ、新年への新たな期待を込め、皆様真剣な面持ちで半紙にしたためていらっしゃいました。



### 江戸川病院 1月 院内行事予定

#### 誕生会

2	—	1	1月21日(土)	14:00~	病棟
棟			1月24日(火)	10:00~	病棟
		1	1月25日(水)	14:00~	病棟
棟			1月28日(土)	14:00~	D棟訓練室
3	—	2	1月28日(土)	14:00~	病棟
棟			1月30日(月)	14:00~	病棟

さくらんぼシアター 1月17日(火) 14:00~ ひま

#### 編集後記

(医療相談室)

あけましておめでとうございます。

今年も患者様のご近況、職員の取り組みなど、当院の日々の一端を微力ながらお届けすることができればと考えております。院長の年頭の挨拶にもありますように、自然環境、社会環境、その一角としての医療環境は熾烈な厳しさを増しております。その中で、精神科病院としての当院の特徴は何か。何を持っていて、当院の患者様に利とさせて頂くことが出来るか。そのことを職員一同胸に刻み、この一年新たな気持ちで、日々精進してゆく所存でございます。今年もよろしく願い申し上げます。

『あおぞらだより』に関するご意見・感想・ご投稿などは『医療相談室』までお寄せ下さい。(内線 238・292)

医療法人社団 全生会 江戸川病院

〒278-0022 千葉県野田市山崎2702  
電話 04-7124-5511 (代)  
<http://www.edogawa-hp.com>